

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ー)

事業所番号	0690800347		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホームサン・シティ		
所在地	山形県酒田市曙町2丁目28-5		
自己評価作成日	平成 27年 10月 22日	開設年月日	平成 27年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

暖かい雰囲気の中でゆったり過ごせるように支援しています。利用者同士も職員も互いに相手を尊重する気持ちを持ち、「ありがとう」の言葉と笑顔の多い施設です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 27年 11月 18日	評価結果決定日	平成 27年 12月 7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月に開設し、「ゆっくり ゆったり 笑顔あふれる『おら家(おらい)』でいつまでも自分らしく過ごしていけるように応援します」と事業所理念を掲げ、利用者と生活を共にするパートナーとして、一緒に働き、遊び、笑うことを心掛けています。広くゆったりとしたスペースのデイルームでは利用者同士や職員とおしゃべりしながらのんびり過ごしている姿が見られます。毎日のように家族が訪れ団欒し、天気の良い日には散歩や買い物に出かけて気分転換をしています。食事の準備や後片付け、おやつ作り、押し絵作品作り、出来ることは何でもやってもらいながら自立に向けた支援に取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者がマイペースで生活でき、自分の好きな場所できつろぎ、笑顔が見られる環境を作っている。家族がいつでも気軽に訪問できる雰囲気を作っている。	法人理念「和」をもとに、利用者が「おら家」でいつまでも自分らしく過ごしていけるように応援する意識を常にもち、介護の統一を話し合いながら毎日のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の喫茶店への外出や買い物を行っている。ボランティアの受け入れや、地域の夏祭りへの参加、コミュニティーセンターの文化祭への参加も行っている。	開設して間もないが、近隣に法人の介護施設が複数あり、以前から地域との交流を進めてきたため同様に地域に受け入れられている。近所への散歩や買い物、コミュニティーセンター文化祭への参加、ボランティアとの交流などを行っている。	これからも地域との繋がりを深めていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービスを開設し、相談を受けたり見学や体験の機会を設けることで、より多くの方の支援ができるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の意見から、地域の夏祭りへの参加やコミュニティーセンターとの繋がりができている。	開催はまだ数回ではあるが、利用者の状況や行事の報告等をもとに、家族代表、自治会長、民生委員、市職員、地域包括センターそれぞれの立場で意見交換し、地域との繋がりが良い方向に進んでいる。	運営推進会議内容を職員に周知しサービスの質向上に励まれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、会議の持ち方や運営等に関してアドバイスをいただいている。	市の公募に応じて開設した経緯があり、市担当者に事業所運営や運営推進会議・介護サービス等について具体的な相談をして、アドバイスをもらうなど協力関係を築いている。また月1回介護相談員の訪問があり、日々のケアに繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかける工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	開設初期に職員研修を実施しており、拘束に当たることの無いようにケアしている。玄関は朝7:00～夜9:00までは自由に出入りができる状況になっており、家族の訪問も早朝や夜でも受け入れている。	研修時身体拘束をしないケアについて職員全員が学び、利用者の自由を束縛しない様に心掛けている。玄関センサー設置により鍵をかける工夫し、見守りにより利用者が安全に過ごせるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は以前虐待防止の研修会に参加した。職員への虐待防止の周知と防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターと連携し、研修の機会を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に来所していただき、十分説明し納得いただいた上でサインをいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された際に管理者や職員に気軽に声を掛けられるようにしている。又、年に数回懇親会を設け、その際に意見をいただいている。	話しやすい雰囲気づくりをする中で普段から電話連絡時等に家族等の意見を聞いている。また日常的な家族来訪の折や、年数回の食事会を兼ねた家族懇親会の機会にも意見や要望を聞き取り、利用者それぞれのケアに活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は気付いた時に管理者や上司に意見を言えるようになってきている。又、GH会議や年2回の個別面談の際に意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価で個々の職員の勤務状況を報告している。その後、上司が個々の職員と面接し、意見の聴取やアドバイスをを行い、意欲を持った仕事ができるようにしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加については積極的に取り組んでおり、勤務変更での対応も実施している。又、資格の取得については補助金制度があり、研修や資格取得のための欠勤には有給休暇を取れるように配慮している。	職員は法人内他事業所から転勤したため介護福祉士等の資格を持ち介護経験があるものが多い。研修には積極的に参加を促し、職員会議で報告・話し合いを持ち全員で共有している。また自己評価による育成にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	酒田市介護サービス事業者連絡協議会に加入している。	市介護サービス事業者連絡協議会に加入し、研修会や他グループホーム・介護事業所の見学等を通してサービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活の様子や表情を観察し、会話の機会を多く設け、何でも話ができる関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時点で家族の話を十分に聞くとともに、施設を見学していただき、その上で希望の聞き取りを実施している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の迷いを受け入れ、一緒に考え、納得できる状況が作れるように支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に行動する機会を多く作るようにしており、常に「手伝ってもらってありがとう」「ありがとう」の言葉が聞かれる環境にある。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な家族には通院介助をお願いしており、利用者にとってGHは自宅であるので、いつでも何人でも来ていただきたいことを伝えている。毎日訪問されている家族もいる。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親族の訪問も受け入れており、定期的に訪問されている方もいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には口げんかをすることもあるが、家族のような関係を築いており、互いに声を掛けあったり、こころ配りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで退所者はいないが、必要に応じて相談や支援はできる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向については、いろいろな機会に汲み取り、できるだけ近づくことができるように取り組んでいる。	利用者が何をしたいか、どう暮らしたいか思いや希望をさりげない会話の中から汲み取るよう心掛けている。担当職員は利用者それぞれの専用申し送りノートに記録し、全員で把握出来るように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、担当したケアマネジャーより情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化について記録し、申し送り、職員一人一人が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る限り情報を収集し、計画に活かしている。	これまでの暮らしや現状をもとに本人や家族等の思いや希望を取り入れ職員と話し合い、自立に向け一人で出来ることを「お手伝い」し、毎日の生活に「張り」が持てるように介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近くの商店への買い物や、喫茶店への外出の機会を作っている。地域の夏祭りへの参加やコミュニティセンターの文化祭への参加を実施している。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は継続しており、基本的に家族に通院介助をお願いしているが、車椅子の利用者の場合は、送迎の援助をしている。又、体調に変化があった場合は、随時報告、相談している。</p>	<p>かかりつけ医の継続や往診可能な医院を選択し、付き添いは家族等を基本としながら、状況により職員が付き添っている。受診時に症状・ケア記録を提供し、結果や薬の変更など看護師が報告を受け職員に周知している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>変化が見られた場合は看護師に相談し、受診等につなげている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医を通してスムーズに入院ができるように支援している。又、入院の際には看護サマリーで情報提供を行っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所契約時に施設の方針や看取り介護について説明し、必要に応じて随時家族と話し合う機会を設けている。</p>	<p>契約時、看取り介護に関する指針に基づき、家族等の納得が得られるよう説明をしている。状況により法人内他介護施設と連携し調整を図ることも考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所時に緊急時の対応について研修を行っている。実際に入居者の脳梗塞の発症時にも速やかな対応ができており、早期の退院に繋がっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、災害時に備えている。	法人内他介護施設と合同で避難訓練を行っている。利用者は防災頭巾をかぶり、避難経路確認や、夜間想定の実践を実施している。近隣防災コミュニティーセンターとの協力体制の話合いも進められている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開所時に倫理と法令遵守についてやプライバシー保護について研修を行っている。又、GH会議において随時、職員の言動について注意すべきことを確認している。	利用者一人ひとりを尊重した言葉掛けで対応し、プライバシーを傷つけないよう配慮しながら、信頼関係の構築に努めている。利用者の個人情報の管理を徹底し、研修を通し職員で意識の共有を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活について決定権は利用者本人にあることを職員は周知しており、随時意思確認を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や就寝時間についても個人の希望を尊重しており、食事の時間もそれぞれの時間に合わせて調整している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ワンピースで過ごしたい方やきれいに化粧したい方など、個々の希望に沿って支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせて、準備や後片付けを職員と一緒にやっている。又、食事の内容について、肉が嫌いな方については魚で対応する等の配慮をしている。	管理栄養士の献立で配食され、ご飯・みそ汁は職員が作り、利用者に合わせ禁止食などに対応しながら食事提供している。利用者は配膳等できることを手伝い、季節の料理やおやつ・誕生日ケーキなどを一緒に手作りして楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、職員や看護師が把握できるようにしている。又、主食の提供量については本人の意向や体重の増減も見ながら調整している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の希望に沿って実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の体調に合わせて、ほとんどの方がトイレで排泄できるように支援している。	利用者の多くは自立しており、トイレでの排泄をさりげなく見守りしている。一人ひとりのパターンを把握し、羞恥心に配慮した声掛けをしている。使いやすいトイレが5箇所設置され手すりも多く安心して繋がっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の働きかけを行い、繊維質の多い食事を提供している。又、個々に合わせた下剤の服用を支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回以上入浴できるように、日中と就寝前の2回入浴時間を設定し、希望の時に入浴ができるようにしている。	就寝前入浴を希望する利用者へは午後7時過ぎでも対応している。入浴時は体調、身体状況の観察や水分補給に留意し、ゆったり入浴できるような声掛けで見守っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や明るさについて、安心できるようにそれぞれに合わせて設定している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員だけでなく介護職員も個々の薬の処方状況について把握しており、変化については看護職員と情報共有し、適切な支援ができるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同制作物を作成し、完成したものを展示したり、文化祭に出品している。又、随時おやつ作りを実施し、能力を生かしてもらっている。希望があれば書籍を取り寄せたり、散歩や外出の機会を作っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って支援している。できるだけ季節感を感じることができるよう、働きかけている。	個別に公園や近所の散歩、歩行訓練、飲食に行く事もある。通院時の家族等と外食・買い物や美容院へ行くことなど楽しみに繋がっている。利用者の希望に応えラーメンを食べたり紅葉狩りに出かけたりにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理能力のある方については所持することを許可しており、使用についても支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実施している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには利用者より季節の花を飾っていただき、心地よく過ごせるようにしている。ほとんどの方が一日の大半を共用スペースで過ごされている。	オープンキッチンからは食欲を誘う匂いが漂い、ゆったりとしたダイニングに季節の飾り付けや日毎カレンダーを掲げ、テーブルの配置換え・炬燵を設け小部屋仕切るなど寛いだ居場所の工夫をしている。調度品も室内の色調に合わせ落ち着いた雰囲気となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席や応接セット、和室のスペースがあり、思い思いの場所で過ごされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族には自由に持ち込んでも良いことを見学時に伝えており、実際にいろいろ持ち込まれて生活されている方もいらっしゃる。	利用者は希望の洋室や和室を選択し、なじみの愛用品を持ち込み思い出の写真を飾ったりしてゆったり過ごしている。居室は広く家族の来訪の折一緒に過ごし、季節毎の整理も相談しながら行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは居室やホールからわかりやすい場所に設置されており、移動時の通路についても安全な幅を確保している。		